旅行型人間ドックいかが

平成 24. 9. 5

年に1回程度の人間ドックや健康診断。どうせ受けるなら、ついでに旅行もいかが？　温泉やゴルフなどの観光と一緒になった旅行型の人間ドックが各地で広まっている。

検査後に温泉、ゴルフ

年1回、のんびりと

独協医科大日光医療センター（栃木県日光市）は2007年1月から、近くの鬼怒川温泉にある五つのホテルと連携した1泊2日の人間ドックを実施している。利用者は栃木県内を中心に首都圏にも広がっており、毎年増加傾向にある。40～50代の夫婦や、友人連れが多いという。

初日の検査は午前10時から始まり、午後3時には終了。その後は温泉に漬かってのんびり…。採血や採尿などは初日で終わるため、宿泊先で夕食や飲酒も堪能できる。翌日の検査は午前中で終了するので、観光を楽しむ時間も。

友人3人と来た栃木県佐野市の女性(54)は「人間ドックを受けるのは憂鬱だけど、友人との旅行も兼ねて年に1度、自分へのご褒美として利用するのもいい」。別の女性(61)も「ベルトコンベヤーのような、混んでいる人間ドックと違い、丁寧に見てもらえた」と笑顔で話す。

同センターの斎藤光弘事務部次長は「もっとリラックスしてもらえるサービスを考えたい。観光と医療を組み合わせることで地域活性化にもつながれば」と期待する。

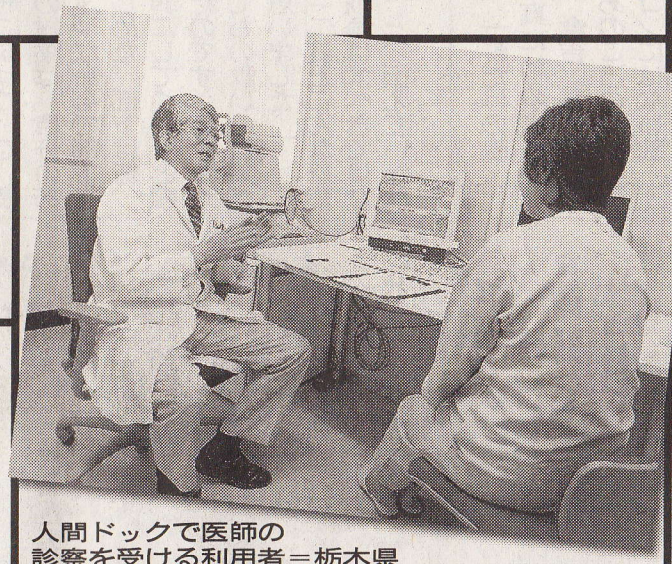
空港からゴルフ場やホテルが近いという利便性を生かして、ゴルフとがん検診をセットにしたツアーもある。

宮崎市の医療機関でがん検診を受けた後、海を臨むリゾートホテルに宿泊し、翌日はゴルフを楽しむ。利用者は40～50代の夫婦やゴルフ仲間が多く、半数近くをリピーターが占めているという。

利用者数はまだ年間約20～30人程度だが、ツアーを運営する「ジェットアンドスポーツ」（東京）の木戸啓子専務は「ゴルフを長く楽しむためにも健康を大事にしてほしい」。同社は、北海道の新千歳空港に近い苫小牧市での〝ゴルフ＋がん検診〟ツアー導入も検討中だ。

これら旅行型ドックの料金は、通常の検査と旅行代を合わせた額よりも割安に設定されている。通常の検査と同様、検査前日午後9時以降の食事が制限され、当日は空腹での移動を伴うが、検査後の〝お楽しみ〟が待っていることから利用者は苦にならないようだ。

医師で多摩大教授（医療経営学）の真野俊樹さんは「各地の実施状況をまとめて情報共有できる組織があれば、新しいアイデアが生まれたり課題が見つかったりして、旅行型ドックがもっと活性化するのでは」と指摘している。



人間ドックで医師の診察を受ける利用者＝栃木県日光市の独協医科大日光医療センター